

牛久市文化芸術振興審議会議事概要		日時	令和6年12月18日(水)
件名	令和6年度第2回牛久市文化芸術振興審議会	場所 時間	ひたち野リフレ4階 第2会議室 午前10時～10時50分
作成年月日	令和6年12月19日(木)	作成者	生涯学習課 主査 鈴木 慶一
出席者	(出席委員) 後藤雅宣会長、上仲典子委員、板東與實委員、宮地正人委員、宮本芳子委員 (事務局) 小川教育部長、高橋教育次長兼スポーツ推進課長、糸賀生涯学習課長、宮田生涯学習課長補佐、鈴木生涯学習課主査、別府生涯学習課主事 (傍聴者) 0名		
	(順不同・敬称略)		
議事内容	・令和5年度文化芸術事業の評価について		
会 議 内 容 等			
1. 開会			
2. 議事：令和5年度文化芸術事業の評価について			
(1) 会長より文化芸術振興審議会の役割について説明があったのちに「令和5年度計画進行評価（案）」の説明があった。 (会長) 事業の進捗について、総じて評価値は低くはなく、各事業の業務そのものは滞っていない。12の中施策は市と審議会の協議により設定したものであるが、それらすべてに同等の重みを求めるものではないので、施策ごとの評価値のばらつきは必然ともいえる。			
(2) 会長より「令和6年度（令和5年度分検証）計画進行評価 補記（案）」の説明があった。 (会長) 令和5年度の評価と過去の評価を比較して6つの視点からどのような傾向が読み取れるか示してみた。 [1] 目標の実現に対する自己評価の4つの柱ごとの8年の推移 4つの柱に同等の重みづけをしている訳ではなく、傾向を読み取ってもらいたい。 [2] 目標の実現に対する審議会評価8年の推移(目標は実現してきているか) 全体の流れを見ると、評価値の数値そのものは決して低くはないが、全体として下がっている。 [3] 目標の実現に対する審議会評価の前年度との比較 前年度(令和4年度)の評価が低い施策の一部については意識的に活動し、高くなっている。 [4] 目標の実現に対する自己評価の、前年度との比較 前年度(令和4年度)の評価が低い施策に対しては改善しようとする意志が読み取れる。 [5] 目標設定の妥当性に対する審議会評価8年の推移(目標設定は妥当になってきているか) 評価の平均値そのものは決して低くないが、全体として下降傾向である。 [6] 目標設定の妥当性に対する審議会評価の3年間の推移			

ここ3年間については、顕著に下降傾向が見て取れる。

(委員) 評価が下降しているのは、同じ事業を続けていて、事業に対するエネルギーが変わらないからと思われる。やっている事が毎回同じだと、達成感がないのではないかな。

(委員) 2020～21年のコロナ禍の影響は大きいと感じる。文化祭の参加団体数・出演者数について言うと、令和4年は72団体・1,143人、令和5年は45団体・793人、令和6年は53団体・882人と、コロナ禍前に比べて減っている。また、参加者も高齢化しており70代後半が多い。若い人をどう取り込むかが課題である。

(会長) コロナ禍はまだ明けておらず、文化芸術全般において再度火をともしのには、エネルギーが必要となる。以前に戻すべく努力が必要である。文化芸術振興審議会には専門家がいるので、生涯学習課とともに汗をかく必要がある。

(3) 「令和5年度計画進行評価(案)」 「令和6年度(令和5年度分検証)計画進行評価 補記(案)」については全会一致で承認された。

3. その他

(1) 令和5年度事業評価において各委員から頂いたコメントへの補足説明

(委員コメント) ひたち野うしく駅でボランティアによる活け花が行われているが、このような文化芸術活動のボランティアに対する補助を行っても良いのではないかな。

(事務局) 文化芸術活動のボランティアに対する補助については、文化協会加盟団体に限られるが、牛久市文化協会において日常の活動以外で行った経費の一部(大会・発表会参加の際の楽器運搬費用など)を活動支援金として支給している。

(委員コメント) 住井すゑ文学館のSNSアカウントはあるのか？

(事務局) 文化遺産活用実行委員会ではアカウントを取得し、InstagramやFacebookなどのSNSで情報発信を行っている。

(委員コメント) 各事業においてどの位の市民・学生が参加しているのか、参加者数が分かれば知りたい。

(事務局) 昨年度と今年度来場者アンケートを取った事業において、お住まいの地域、年齢層がわかるものは次の通り。

[1] うしく現代美術展

来客者は半数以上が市内在住で、年齢層は比較的60歳以上が多いが、20代以下も一定数あった。

[2] うしくのひなまつり

来客者の60%以上は市内在住で、年齢層は60歳以上の方が多かった。

[3] 2023MUSE コンサート

市内在住者より県内の市外在住者の割合が高かった。

(委員) ひなまつりは家族連れも多く小さい子供もいるが、アンケートは大人が記入しているため年齢層の割合は高くなる。実際の子どもの来場者数はもっと多いのではないかな。

(委員コメント) 小学生には能より狂言の方が親しみやすいのではないかな？

(事務局) 伝統芸能の鑑賞会は、過去には狂言の鑑賞も行っていたが、現在は主に中学生向けに能楽の鑑賞会を実施している。また、令和8年度までは1年につき2校ずつ中学校に対して実施する予定である。ご意見は今後の参考としたい。

(2) 今後の事務の進め方等の説明

(事務局) 令和5年度の事業評価につきましては、今回の審議会にて終了となる。

令和８年度からの第２期文化芸術振興基本計画の策定については、令和７年度予算において計画策定支援のための予算を計上している。

施策の内容については、現在第４次総合計画第２期基本計画、牛久市教育大綱・牛久市教育振興基本計画の作成が進められており、これらの計画や文化芸術推進基本計画など国の計画の内容も参照しながら策定する必要がある。

(委員) 参加者が高齢化しているというデータが出てきているが、移動手段も含めて参加しやすい事業を考えていかなければいけないのかなと思う。また、若い人達の参加が少ない事については、若い世代は自分が事業の中心にいないと当事者であることを実感せず、何かを一緒にする意識が減っていると感じており、今まで通りの事業の進め方だと今後破綻するように思う。若い世代を取り込むには、本人達を事業の中心に据えることが必要だと考えるが、指導者は必要であり、また数年ではできない事なので、今から種をまく必要がある。経験を伝えることは今後 10 年位が最後のチャンスではないかと思うので、現在策定中の第４次総合計画第２期基本計画の内容は重要になるのではないかな。

4. 閉 会